



ピース! Peace

Team Shiroyama

Peace 飛び交う、楽しい学校をつくろう！

HP <https://www.nagasaki-city.ed.jp/shiroyama-e/>

令和 6 年 5 月 22 日

学校だより 第 3 号

校長 宮田 幸治

城山小スポーツフェスティバル 御協力ありがとうございました！

かぶとがにアリーナにおいて、初めての室内開催でしたが、何とか無事に終了することができました。早朝より御参観いただき、ありがとうございました。また、多大なご協力をいただきました、育友会、親父の会、地域の方々、本当にありがとうございました。子供たちの感想を担当の先生方から聞いてみました。子供たちの中にもいろいろな感じ方があったようですが、「楽しかった。」という声が多く聞かれたようです。そのような中、次のような子供の感想があったことも教えていただきました。

実は、今まで言えなかったけれど、運動会が苦手な運動会があまり好きではありませんでした。でも、今回のスポーツフェスティバルは、そんな自分でも楽しく競技を行うことができました。

このような感想が聞かれたことは、今回のスポーツフェスティバルを開催したねらいの一つでもあります。多くの子供たちが、仲間とスポーツを通じてワクワクドキドキの楽しい時を過ごすことができたのであれば、大変うれしく思います。どうすれば運動が得意な子供も苦手な子供も楽しく活動に取り組むことができるのか、円滑な運営に向けてどんなことに取り組めばよいのか、などを連日職員間で話し合いをし、また下見を重ねて検討してきました。その頑張りにより校長として頭が下がりました。私たちが目指したのは、フェスティバル後の子供たちの笑顔です。春の運動会は、学級・学年づくりの一環としての行事でもあります。今後の子供たちの成長に結び付けていきたいと考えています。

御迷惑をお掛けしたことも多々ございます。その点、お詫びいたします。次年度に生かすことができるよう努めてまいります。

「叱られ上手な子供たち」

前号からの続きです！

前回に続いて「叱ること」についてです。今回は「叱られ上手な子供」についてです。最近、企業に就職した若者の中に「打たれ弱い・注意するとすぐキレる・親から叱られず甘やかされて育った」等の「叱られ下手」が増加しているそうです。多くの子供は、叱られると「損をした・運が悪かった」などと感じます。中には叱った先生や大人を恨んだりする子供もいます。これも「叱られ下手」な子供と言えるでしょう。

逆に「叱られ上手」な子供もいます。私はこれまでの教員人生において、小学生にバレーボール・バスケットボール・ソフトボールの指導をしました。なんと離島の学校では、顧問の先生が未経験者だからと校長先生に頼み込まれ、中学校野球部の指導も経験しました。(小学校の教頭だったのに…)部活動や課外クラブの練習をする子供たちの中には、指導者からどれだけ叱られても心から「ありがとうございました。」と言える子が存在します。この子たちに共通しているのは、「上手になりたい、もっといいプレイヤーになりたい」という思いです。自分の目標を達成するための材料として指導者の言葉を役立てようという考え方ができる子供なんですね。もちろん教室の中にも「叱られ上手」な子供がたくさんいます。この子供たちの多くは、叱られることで自分は「上手になれる・強くなれる・優しくなれる・賢くなれる」そして「豊かになれる・幸せになれる」という極めてプラスの方向に意識が向いていることが分かります。

叱られることを損したと感じる子と、叱られたことを正され成長したと感じる子の間に大きな差が生まれることは一目瞭然です。やはり子供には、叱られることに慣れさせ、さらには叱られるときの「正しい作法」を学ばせたいものです。しかし、いかに叱られることが良薬だといっても薬が苦いのは事実です。私は「叱られ上手」の子供は、巧みな指導テクニックをもつ「叱り上手」な大人が育てているのだと思っています。長年教育現場にいて、「この先生は叱り上手だなあ。」と感心する教師に何人も出会いました。苦い薬を甘く感じさせ、耳の痛い話にも思わず子供が素直にうなずくような、なんとも不思議なカリスマテクニックをもつ教師です。今回は、「叱り方のテクニックの秘密」についてです。